

能代北高跡地利活用可能性検討業務

報 告 書

【概要版】

令和6年3月

秋田公立美術大学

1 北高跡地の利活用に向けた実践型ワークショップの立案

- ・R3年度に実施したワークショップ（WS）では、北高跡地を活用する実践型WS案として5つのテーマ（宿泊、スタートアップ、展示、つくる、展望）が提示された。それに基づき、昨年度は、「宿泊」及び「展望」を中心に「つくる」の要素を組み込んだ実践型WSを開催した。
- ・今年度は、「展示」及び「スタートアップ」を軸に、他のテーマとの連携も含めたWSの開催について検討を行い、実施した。

表1 今年度実施した実践型ワークショップ

開催日時	備考
2023年8月19日(土)、20日(日)	北高跡地を起点とする能代市が有する文化財の見学ルートの開発を目的にしたプレWS
2023年10月14日(土)、15日(日)	実践型WS「北高跡地でイロイロしてみる」 （「展示」を軸に「つくる」も組み込んだWS）
2023年12月6日(水)、8日(金)、9日(土)、 2024年1月12日(金)、21日(日)	実践型WS「スタートアップ」※

※令和4年度共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）育成型「技術×教養×デザインで拓く森林資源活用による次世代に向けた価値創造共創拠点」（JPMJPF2215）の研究開発課題：地域資源リサーチに基づく市街地木造・木質化に向けた空間デザイン研究により実施

2 北高跡地の利活用に向けた実践型ワークショップの実施

1) 実践型WS「北高跡地でイロイロしてみる」

- ・実践型WS「北高跡地でイロイロしてみる」は、能代市が有する文化財の存在を多くの方と共有する手法の検討と将来的な文化財の発掘を念頭においた体験型WSを企画した。
- ・北高跡地の活用について、「能代の歴史・文化訪問ツアー」での意見交換では、能代市文化財資料収蔵庫にはない展示機能を有する施設の建設、「能代の文化体験イベント」での意見交換では、広場としての活用といったWSの内容との関連性が強い意見が多く出された。



図1 実践型WS「北高跡地でイロイロしてみる」の様子

表2 実践型WS「北高跡地でイロイロしてみる」概要

開催日	プログラム等
2023年 10月14日(土)	能代の歴史・文化訪問ツアー (A、Bのどちらかを選択)
	<p>10:00 オープニング後、バスに乗車</p> <p>A「能代パワースポットコース」</p> <p>10:25 日吉神社(宮司のお話・山車見学)～休憩・昼食～日和山(五輪塔・方角石)～御旅所(一押しパワースポット)～龍泉寺(住職のお話・御沢仏・円空仏)～稲荷神社ほか(舟絵馬)</p> <p>B「檜山の殿様が見た景色コース」</p> <p>10:45 檜山城跡(山城を歩こう)～多宝院(春には桜で有名な寺院)～休憩・昼食～霧山天神宮(宮司のお話・見学)～檜山北限の茶畑(茶畑を歩こう)～檜山崇徳館ほか(檜山焼き・檜山城赤色立体地図など)</p> <p>15:40 北高跡地(振り返り・アンケート)</p> <p>16:30 解散</p>
2023年 10月15日(日)	能代の文化体験イベント
	<p>10:00 オープニング</p> <p>10:15 組子細工講座&体験 講師：湊哲一(ミナトファニチャー) キット協力：株式会社大栄木工</p> <p>11:45 檜山茶講座&体験 講師：佐藤さつき(和カフェ月) お茶協力：茶誠堂</p> <p>12:30 能代ネギ焼きBBQ 食材協力：Sun農園</p> <p>14:00 クロージング(振り返り・アンケート)</p> <p>14:30 解散</p>

2) 実践型WS「スタートアップ」

- ・令和4年度共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)育成型で採択された「技術×教養×デザインで拓く森林資源活用による次世代に向けた価値創造共創拠点」の研究課題を題材にした「スタートアップ」のWSを実施した。
- ・能代市中心市街地における秋田県立大学、国際教養大学、秋田公立美術大学の合同サテライトスペースのあり方について、フィールドワークやWSを実施し、意見交換を行った。
- ・フィールドワークでは地域の担い手として大学生に期待する多くの声が確認された一方で、参加した学生からは、3大学合同サテライトスペースを拠点に能代市で活動するためには、「能代市を訪れる目的の創出」と「利便性の確保」が必要不可欠であるという意見が出された。
- ・WSでは、「3大学合同サテライトスペース」は、能代市中心市街地の空き店舗を対象に木質建築材料を活かした空間づくりを行うだけでなく、老朽化した建築の構造・防耐火性能を向上させる技術を用いた、「木都能代」の伝統・文化・技術を結集した拠点とすることが提案された。

表3 実践型WS「スタートアップ」概要

開催日	プログラム等
2023年 12月8日(金) 12月9日(土)	フィールドワーク
	<1日目> 木材関連企業4社の工場・現場見学、秋田県立木材高度研究所の見学 <2日目> 能代市のまちづくり事例紹介、中心市街地の自由探索、振り返りWS
2024年 1月12日(金) 1月21日(日)	ワークショップ
	<1回目> フィールドワーク調査で抽出した課題の洗い出し 地域資源を活用した解決策の検討 <2回目> 能代市の地域資源を活用して循環の滞りを解消するとともに、新たな循環を創り出す「3大学合同サテライトスペース」の在り方・機能の検討



図2 実践型WS「スタートアップ」の様子

3 ワークショップにおける検討成果の公表

- ・2日間にわたるワークショップの実施内容については、ニュースレター(計2号発行)により、広く公表した。
- ・ワークショップに参加していない人でも、その検討成果を共有できるよう、能代市役所の市民交流スペースにおいて、ニュースレターを中心としたバナー展示を行うなど、多様な手法を用いた検討成果の公表を試みた。
- ・実践型WSの開催にあたっては、これまでの参加者以外にも訴求するため、アーツセンターあきたのウェブサイト、Facebookによるイベント案内を通じた広範な発信を行った。また、チラシを能代市内だけでなく秋田県内全域の施設等にて配布し、能代市民以外にも本ワークショップへの参加の訴求を図った。



能代北高跡地のワークショップニュースレター（表紙）



能代市役所の市民交流スペースにおけるバナー展示

図3 多様な手法を用いた検討成果の公表

4 今後の展望

1) 北高跡地の現状

- ・北高跡地の都市計画上の重要性は「能代市都市計画マスタープラン・能代市立地適正化計画」等の各計画において明文化されており、その活用に向けては、より広域的な視点での検討が求められる状況にある。
- ・「能代市公共施設等総合管理計画改訂版」では、改訂前と比較し、40年間の更新費用は大幅に縮減されたものの、公共施設の延床面積を35%削減する目標は堅持されており、北高跡地に建物を建設する場合は、公共施設の集約化や民間資金の活用といった、維持管理費の縮減に関する工夫が必要になる状況に大きな変化はない。
- ・地方の公立博物館の中でも多くの入館者を集めている萩博物館は、建設以前のまちづくり活動や行政組織の改革といった蓄積の上に成り立っているのに対して、能代市では文化財や歴史文化財の調査・研究に力点が置かれている状況であり、文化財を活用したまちづくりへと展開する前段階にある。
- ・昨年度から行ってきた実践型WSでは、北高跡地に建設が必要な施設について参加者間の共通認識は生まれず、また提示された施設のイメージも大規模なものではなく、用途によっては周辺施設の改変で対応可能なものもあったため、今後も議論を行なっていく必要がある。

2) 今後の北高跡地の利活用方針

- ・以上の現状を踏まえ、北高跡地は今後、様々な活動を受け入れることができる広場として一定期間確保し、「思考継続型プロジェクト」を推進していくとともに、北高跡地を能代市のまちづくりに関する意見交換の場として活用していく。

利活用の方針1

実際に北高跡地を使いながら利活用のあり方を検討する
「思考継続型プロジェクト」の推進

利活用の方針2

北高跡地を能代市のまちづくりに関する意見交換の場として活用

3) 「思考継続型プロジェクト」の継続的な実施に向けた課題

・「思考継続型プロジェクト」の継続的な実施に向けた主な課題として、以下の4つを抽出した。

● 利活用に関する機運の醸成

- ・北高跡地を知ってもらうことに主眼を置いたWSの開催
- ・より多くの参加者が見込める費用対効果の高い実践型WSの開催

● 思考継続型プロジェクトを効果的・効率的に進めるための環境整備

- ・トイレ及び荒天時でも対応可能な施設の整備
- ・空調設備を有する建築物を整備できれば、季節に関わらず実践型WSの開催が可能

● 実践型WSの水平展開

- ・北高跡地を広場として捉え直し、全ての利用実績を蓄積
- ・種々のイベントを受け入れることが可能な体制の構築

● 公共施設の統廃合に関する具体的なイメージの共有

- ・老朽化した施設の統廃合を視野に入れた施設整備の検討
- ・施設の新設と既存施設の統合・廃止の組合せを想定した生産的な意見交換の実施